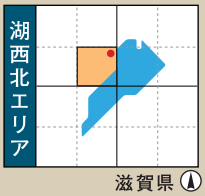
史跡
県指定

王塚古墳（おうづかこふん）

高島郡今津町日置前　昭和62年3月30日指定



王塚古墳は、函館山、赤坂山から流れ出る小河川が形成する扇状地の中央に位置する、高島郡最大の古墳時代中期の円墳です。王塚古墳と琵琶湖に浮かぶ竹生島、対岸の伊吹山がほぼ一直線に並び、神秘的な景観を造り上げています。

当時のできごと	
475年	高句麗 百済を大破する
512年	大伴金村 任那北部4県を割譲する
527年	筑紫国造　磐井反乱

高島郡の中期古墳

王塚古墳は、発掘調査が行われていないため、正確な年代は不明ですが、墳丘形などから判断し、5世紀の終わり頃に築造された古墳と考えられます。王塚古墳と同じ頃に造られた古墳としては、安曇川町にある後円部径約58mの帆立貝式の田中王塚古墳、やや時代が上る要素があるものの直径36mの円墳である新旭町の熊野本19号墳があり、それぞれが、その地域を支配した有力豪族の墳墓としてとらえることができます。

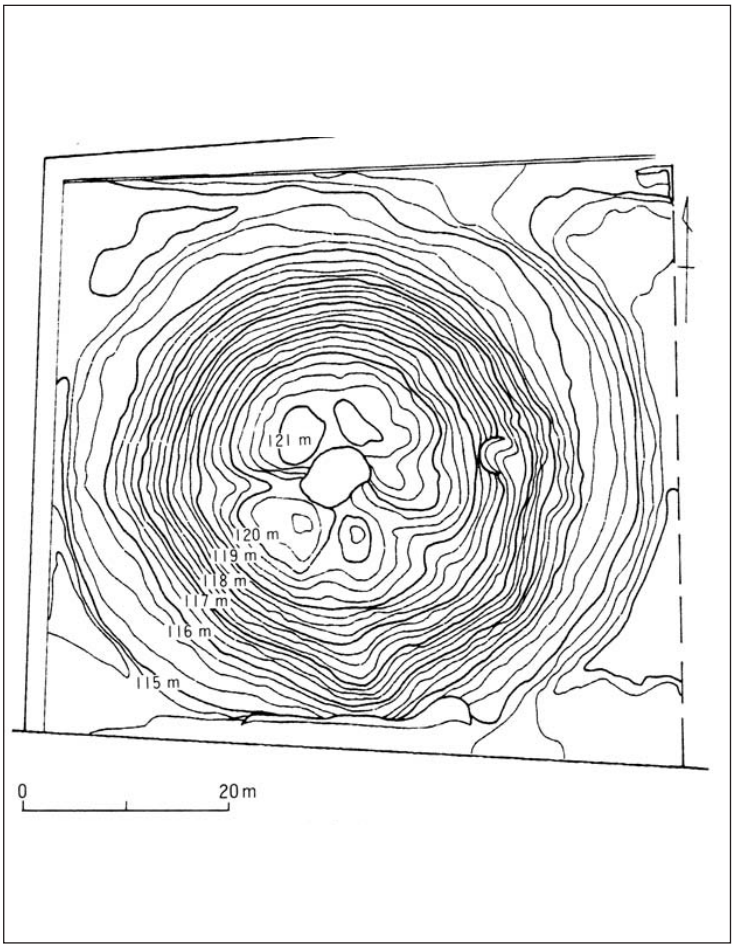
また、最近の調査では、王塚古墳の周辺の日置前遺跡、構遺跡、弘川佃・葭元遺跡、妙見山古墳群などから、数多くの後期古墳が見つかり、王塚の系譜との関係から注目されます。



王塚古墳墳丘

王塚古墳の構造

王塚古墳は、2段築成の円墳で、墳丘の直径は約56m、高さ約7m。墳頂部に直径約15mの平坦部があります。また、一部削平されているものの、幅13m程度の周濠が巡ります。墳丘の遺存状況は良好で、築造当時の形状をよくとどめています。なお、東側に造り出しを設けていた可能性があります。発掘調査が行われていないため詳細については不明ですが、葺石や埴輪は確認されていません。また、墳頂部の中央に深い被掘坑が認められますが、石材がないことから、主体部は木棺直葬か、粘土槨と考えられます。



王塚古墳測量図



王塚古墳、竹生島、伊吹山が一直線に並ぶ

王塚古墳周辺の遺跡

先に紹介したように、王塚古墳の周辺からは、この古墳に続く時代の後期古墳が多数見つかっています。また古墳の西には、8世紀初頭頃に建立され、全国で2例目となる彩色壁画破片の出土があった、日置前廃寺跡（ひおきまえはいじあと）があり、さらに、王塚古墳を取り囲むように、8世紀前半から後半にかけて、高島郡衙として機能したのではないかと考えられる、日置前遺跡が広がり、この地域に覇権を保った勢力の系譜を追うことができます。

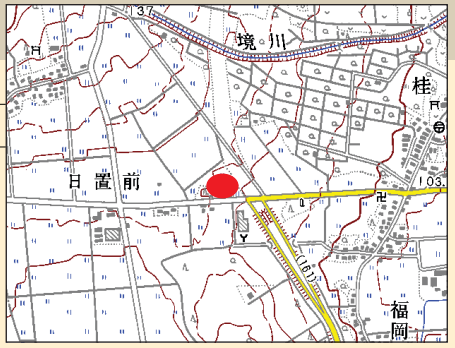
関連する文化財

田中大塚古墳（安曇川町）	直径約58mの古墳時代中期の帆立貝式古墳。陵墓参考地となっている
日置前遺跡（今津町）	王塚古墳の周辺に広がる古代の官衙遺跡。高島郡衙の推定地の一つでもある
日置前廃寺（今津町）	日置前遺跡に近接する古代寺院の遺跡。彩色壁画の断片が出土している
妙見山古墳群（今津町）	日置前遺跡の東丘陵上に造られた後期古墳群。横穴式石室を持つものが多い

もっと深く知りたい

今津町教育委員会	☎0740-22-6840	高島郡今津町大字今津1966
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678

王塚古墳へのアクセス　ＪＲ湖西線　近江今津駅下車



【参考文献】〔滋賀県埋蔵文化財調査年報〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月